第6学年3組 図画工作科学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年11月13日（金）5時間目
対象　第6学年3組　35名
指導者　教諭　保知戸　里美

1 単元名 「墨から生まれる世界」

2 単元の目標

○ 墨の濃淡やにじみ、かすれ、道具の使い方による表し方の特徴や違いを理解し、表し方を工夫して表すことができる。（知識及び技能）

○ 墨の特徴や様々な試みから見つけた表し方の良さや面白さを感じ取り、どのように表すかについて発想し、構想を練ることができる。（思考力，判断力，表現力等）

○ 墨を使った様々な表現に親しみ、進んで試したり試行錯誤を楽しんだりしながら、想いをもってのびのびと描こうとする。（学びに向かう力，人間性等）

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	墨の濃さ、にじみやかすれ、筆やその他の道具の使い方による効果や違いを理解し、表し方を工夫している。	墨の特徴を生かした様々な試みを通して、線の動きや明暗の良さを感じ取り、自分の表現したいイメージや構想を考えている。	墨の扱い方や表現方法を進んで試そうとし、自分の思いや表したいことに応じて楽しく主体的に表そうとしている。

4 単元構想

（1）児童について（児童観）

児童はこれまで書写の授業で墨や筆を扱った経験はあるが、「文字を整えて書く」という目的が主であり、墨の濃淡やにじみ、かすれといった表現の多様性や自由な造形要素に触れる機会は少なかった。毎週の図工に一生懸命に取り組む児童も多いが、一方で表現に対して「上手・下手」の意識を強く持っていたり、面倒がって活動に意欲的に取り組めない児童も多く、二分化されている。表現の正解を求めずに「とにかく試してみる」活動を通して、偶発的な表現の良さや面白さに気付かせたい。

（2）教材について（学習材観）

本単元は、墨という伝統的かつ豊かな造形性をもつ材料を用いて、多様な表し方を自由に試し、表現の幅を広げる学習材である。水と墨の比率による気品ある濃淡（うすめる）、偶然性から生まれる美しさ（にじみ）、筆の勢いや掠れ（かすれ）、身近な道具や身体的な動作を応用した筆使い（スタンプ、叩く、振る）など、一回性の偶発的な面白さを発見できる特性がある。

活動後に振り返りのワークシートで「自分の試した活動の面白さに気づく」ことと、「友達が偶然見つけた技法や表現のよさに気づき、認め合う」機会を組み込む。

（3）単元について（単元観）

本単元（全6時間）では、第1次に墨の特性や多様な表し方を試す活動に特化させることで、失敗を恐れず思い切った表現に取り組めるようにする。第2次からは試した経験を生かして本番紙での作品製作に入り、第3次で仕上げをして完成とする。第1回目の本時では、知識の提示にとどまらず、児童が「試す楽しさ」や「普段の絵の具とは違った墨の濃さ」を実感することを最重視する。

5 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

①自分に合った表現を自覚する工夫

・試し紙（5 枚）を活用し、動画やポスターで見た技法（うすめる・にじみ・かすれ・筆の使い方）を自分の手で再現・実践することで、自分が「心地よい」「面白い」と感じる表現方法や墨の濃さを自覚できるようにする。

②振り返りの工夫

・振り返りでは、自分で試したり友達が試したりしていたアイデアの中から、次回の制作に生かせそうなものを言語化させる。

【他者受容】

①友達の表現から学び合う工夫

・試し書きの最中や合間に、教師が他の児童の活動を紹介したり、どのような工夫をしているのか周囲にも聞こえるように質問したり、友達が試している意外な筆の使い方や予期せぬにじみの美しさに目を向けさせる。互いにアイデアを参考にし合えるオープンな雰囲気をつくる。

6 単元の指導と評価の計画 （全6時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	・評価規準 ○方法
1	1 2 本時	・「図工人」の動画を見て、墨の多様な表現を知る。 ・試し紙に墨の濃淡、にじみ、かすれ、いろいろな筆の使い方などを試す。	・墨の特性や表し方の多様性に気付き、自ら進んで試せる環境を設定する。 ・安全やマナーを守って用具を扱うよう指導する。	・墨のいろいろな表し方を試しながら、その面白さやよさに気づき、自ら進んで試している。 ○活動の様子・ワークシート
2	3 4	・前時の経験を参考に構想を練る。 ・本番紙に、自分の思いやイメージに沿って墨で作品を表現する。	・表現したいイメージに合わせて、前時で見つけた表し方を工夫して選べるようにする。	・自分のイメージに合った表し方を工夫して表現している。 ○作品・活動の様子
3	5 6	・作品を仕上げ、鑑賞会を行う。 ・お互いの作品のよさや墨の表現の魅力を味わう。	・自分や友達の作品の良さや、墨表現の面白さを感じ取り共有できるようにする。	・自分や友達の作品の良さや工夫を味わい、認め合っている。 ○作品・活動の様子・ワークシート

7 本時の学習（2／6時間）

（1）本時のねらい

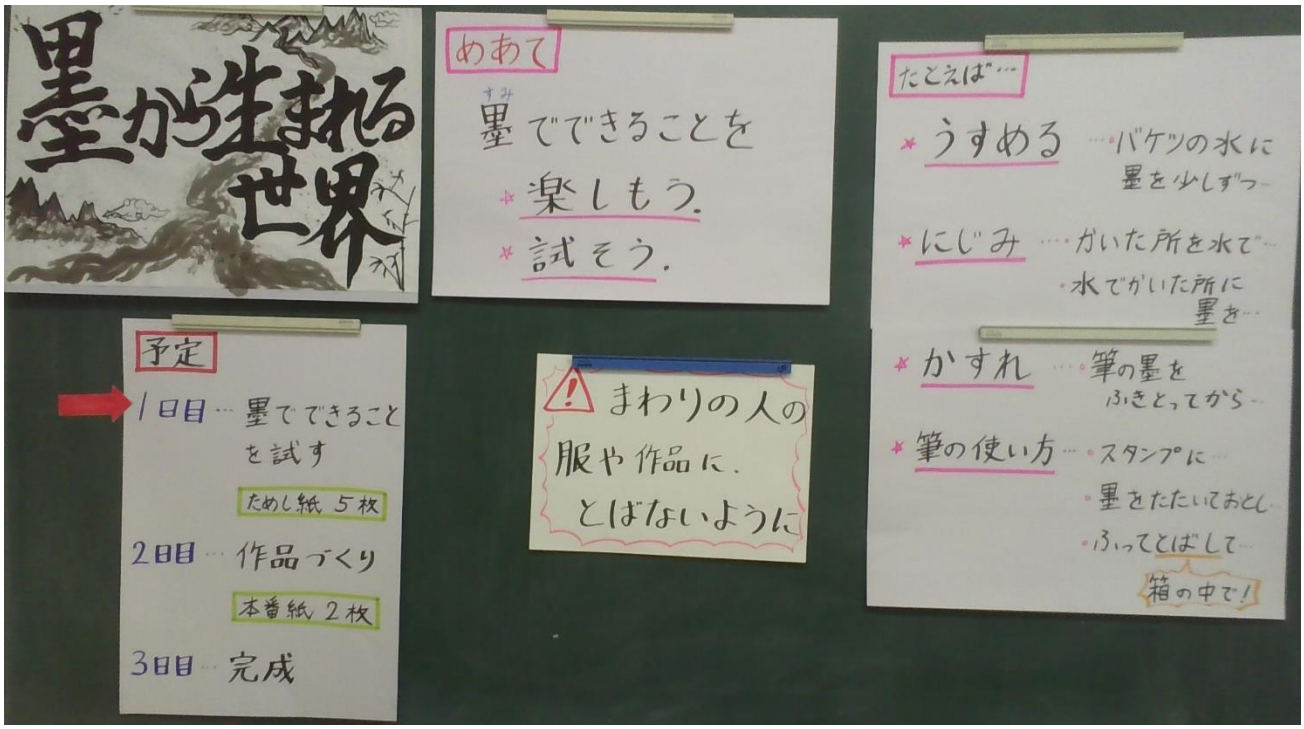
墨の濃淡やにじみ、かすれ、筆の使い方などを多様に試すことを通して、墨表現の面白さや魅力に気付き、進んで自分なりの表し方を試行錯誤することができる。

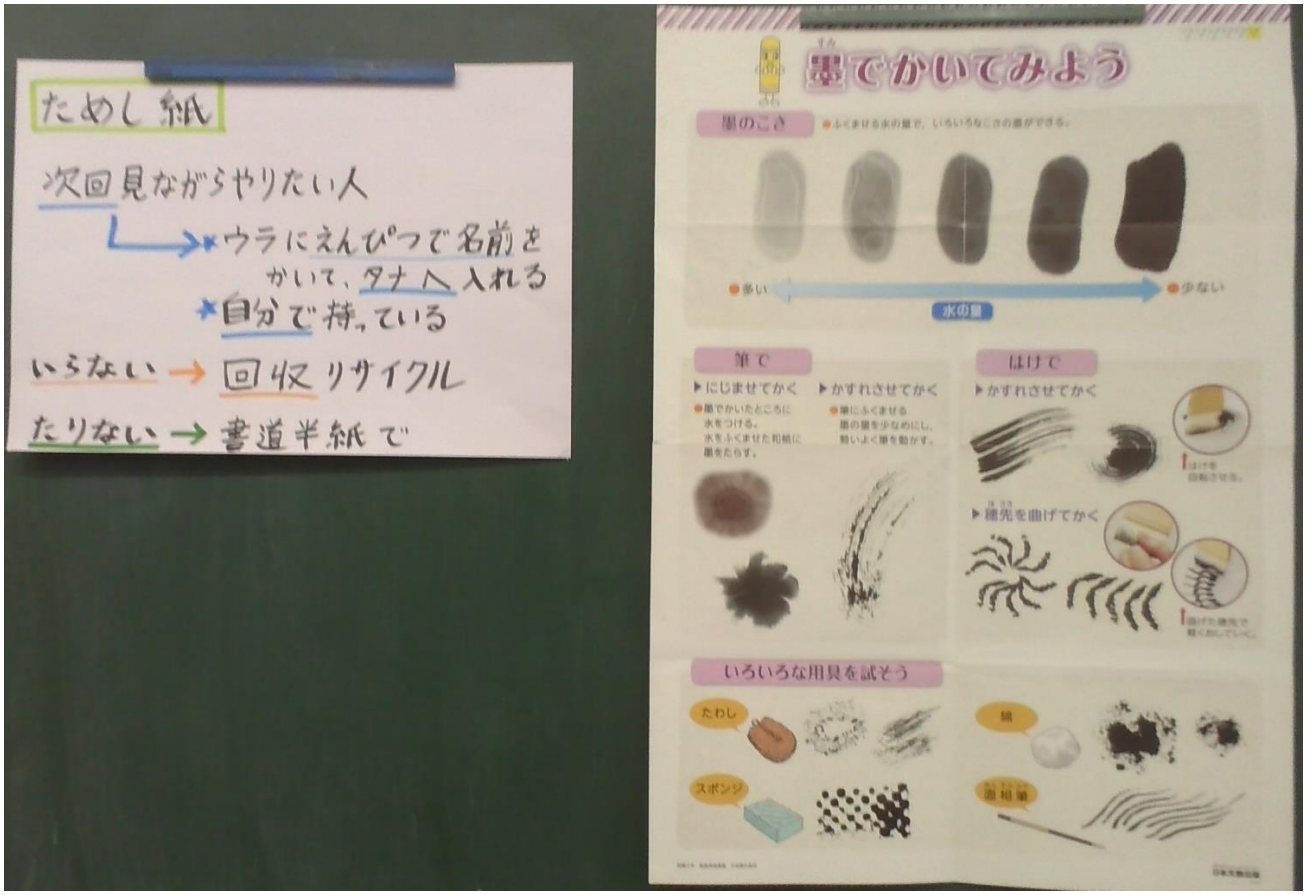
（2）展開

	学習活動	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
導入	1．単元全体の流れと今日の予定を確認する。	・今回は「制作」より「試す」ことが主であることを確認する
	めあて：墨でできることを【楽しもう】【試そう】	
	2．前時の動画で観た表現の中から、まだ取り組んでいないものを確認する。 （濃淡・にじみ・かすれ・筆の使い方）	・全体で「技法」を共有する際、「これ以外にもいろいろできるかも」と自由な試行を促す。 ・飛散防止のため、筆を振る・叩く活動は必ず箱の中で行うよう指導する。

	3．試し紙の扱いについて確認する。	
展開	4．試し紙（5 枚）を使い、墨の表現を自由に試す。 自 他 ・周囲の友達がどんな面白い表し方をしているか観察しながら進める。 ・ある程度試したら、基本の表現（濃淡・にじみ・かすれ・筆の使い方）でまだ試していないものがないか確認する。 ・試し紙が 5 枚で足りない場合は、書道用半紙も使って表現する。	・薄墨の濃度調整や、にじみの広がり方、筆のかすれ具合など、絵の具との違いに気付けるようにする。 ・班ごとに刷毛や紐などを配り、新しい発想を促す。 自己理解① うまくいかなくても、前向きに新しい技法を試そうとしている姿勢や偶発的に生まれた模様を「それも面白い味になるね」と、教師が肯定的に受容することで、児童が自分に合った表現を自覚できるようにする。 他者受容① 「〇〇さんのにじみ方、綺麗だね」「そのスタンプの押し方、面白いね。」など、周囲の工夫に気付かせる声かけを行う。 〇墨の多様な表し方に興味をもち、濃淡、にじみ、かすれ、用具の使い方を意欲的に試している。 （活動の様子）
終末	5．片付けと試し紙を処理する。 6．振り返りをする。自 ・「いろいろな技法を試すことができたか」や「次回にいかせそうなこと」を振り返る。	・試し紙の保管方法を明確にし、次時の作品制作（2 日目）へスムーズに繋げられるようにする。 自己理解② 試した技法の中から自分の好きな表現を探し、「次回にいかせそうなこと」について振り返る。 〇墨の様々な表し方の面白さに気づき、自分の好みや他者の良さを感じ取ることができたか。 （ワークシート）

（3）板書計画


墨から生まれる世界
めあて
墨でできることを
楽しもう.
試そう.
たとえば…
うすめる …バケツの水に墨を少しずつ
にじみ …かいた所を水で…
水でかいた所に墨を…
かすれ …筆の墨をふきとってから…
筆の使い方 …スタンプに…
墨をたたいておとし…
ふってとばして…
箱の中で!
予定
1日目…墨でできることを試す
ためし紙 5枚
2日目…作品づくり
本番紙 2枚
3日目…完成
まわりの人の服や作品に、とばないように


ためし紙
次回見ながらやりたい人
ウラにえんぴつで名前をかいて、タナへ入れる
自分で持っている
いらない → 回収リサイクル
たりない → 書道半紙で
墨でかいてみよう
墨のこさ
多い
少ない
水の量
筆で
にじませてかく
かすれさせてかく
はけで
かすれさせてかく
穂先を曲げてかく
いろいろな用具を試そう
たわし
綿
スポンジ
面相筆